

特別講演会 **大川 四郎** 愛知大学法学部教授

第二次世界大戦中の 赤十字と名古屋大学

第二次世界大戦中の名古屋帝国大学医学部の卒業生らは、ほぼ全員が陸海軍の軍医として戦地に動員された。戦場で彼らが遵守を義務づけられた赤十字条約(ジュネーブ条約)とはどのような内容だったのか。他方、当時の赤十字国際委員会駐日代表らによる日本国内の捕虜収容所および敵国籍民間人抑留所の査察記録の中に、意外にも名古屋大学が言及されている。戦時中の赤十字と名古屋大学との関わりについて、考えてみたい。



2016年**9月30日** **金**
15:00-16:30

入場無料
予約不要

名古屋大学医学部
基礎研究棟
1階 会議室2

問合せ先: 名古屋大学附属図書館医学部分館
名古屋市昭和区鶴舞町65
TEL 052-744-2505



特別講演会

第二次世界大戦中の赤十字と名古屋大学

日時：2016年9月30日(金)15:00-16:30

会場：名古屋大学医学部基礎研究棟 1階 会議室2

第二次世界大戦中の日本国内における赤十字国際委員会活動の実態を調査するために、数年来、講演者は、国内外の史料を調査してきた。それらの史料によると、名古屋帝国大学は善通寺俘虜収容所に多数の洋雑誌を差し入れている。また、愛知県愛知郡天白村字ハ事表山(現在、名古屋市天白区ハ事表山)に設置された愛知民間人抑留所には、イタリア国籍民間人が抑留されていた。彼らが疾病に罹った場合、当時の名古屋帝国大学医学部附属病院の医師らが治療を担当することになっていた。なお、抑留者の中には、戦後、フィレンツェ大学教授として日本研究で顕著な業績を挙げるフオスコ・マライーニ、そして、彼の長女であり、今日、現代イタリア文学界を代表する作家ダーチャ・マライーニが含まれている。これらのエピソードをも素材に、第二次世界大戦中の名古屋大学史に新たな光をあててみたいと講演者は考えている。



大川 四郎 (愛知大学法学部教授)

名古屋大学法学部卒業

法学修士(ジュネーブ州立大学法学部)、法学修士(名古屋大学)

講演テーマに関する著作類:

- ・共著「太平洋戦争中の日本国内における欧米人捕虜の処遇に関する日本赤十字社文書の研究」
- ・単著「赤十字国際委員会駐日首席代表フリッツ・パラヴィチーニ博士(1874-1944)とそのスイス人協力者たち」(ロジャー・モッティーニ編『スイスと日本 - 課題を抱えた時代のパートナーシップ(スイス日本商工会議所創立25周年記念年鑑)』)
- ・単著「(研究ノート)第1次世界大戦中の名古屋俘虜収容所における救恤活動について - 赤十字国際委員会駐日代表フリッツ・パラヴィチーニ報告をもとにして」
- ・編訳書『欧米人捕虜と赤十字活動 - パラヴィチーニ博士の復権』(論創社、2005年)ほか

ミニ企画展

戦争と大学

— 軍医と銃後 —

ふたたび

開催期間：2016年6月10日(金)～9月30日(金)

平日 9:00-20:00 8月8日-9月30日は9:00-17:00

土 13:00-17:00 8月13日-9月24日の土曜日は休館

休館日：日・祝日、8月15-16日、25-31日

軍医と銃後に関連する図書、写真、医療器具などを展示公開します。観覧無料、入場無料です。

名古屋大学附属図書館 **医学部分館** 2階入口ホール

問合せ先：名古屋大学附属図書館医学部分館

名古屋市昭和区鶴舞町65

TEL 052-744-2505